

## 日本鳥類標識協会 2020 年度全国大会「中止」のお知らせ

2020 年 6 月 20 日

日本鳥類標識協会会員の皆様

日本鳥類標識協会 2020 年度全国大会実行委員会は、本年初冬岩手県盛岡市において大会を開催すべく関係各方面と相談しながら準備を進めて参りました。一方、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大やそれに伴う緊急事態宣言等社会情勢の変化についても注意し、開催の是非や可能性を検討するとともに、本会評議員会では地元関係者の意向を尊重する立場で協議を重ねてきました。その結果、誠に残念ですが、表記のとおり**本年の全国大会を中止することに決定しました**。会員の皆様の貴重な研究発表や交流の機会が失われることになり、誠に心苦しい限りです。なにとぞ事情をご理解いただきたく、お願い申し上げます。

2020 年度大会が無くなり、調査・研究の進捗が困難な状況下にあっても、本会は会員の皆様と共に、鳥学基礎分野の発展をめざし努力を続けたいと思います。引き続き、本会諸活動へのご参加・ご協力のほど、どうぞよろしく申し上げます。

日本鳥類標識協会会長 千葉 晃  
2020 年度全国大会実行委員会 作山宗樹

大会中止の判断に至った経緯と理由について

1. 国内における COVID-19 の感染拡大（所謂コロナ禍）が仮に夏頃までに一旦収まったとしても、世界的な終息は見込めず、第 2 波、第 3 波の可能性が有り得ること。
2. 参加者には高齢会員も含まれることが想定され、参加に伴う移動において感染・重症化のリスクが否定できないこと。
3. 全国的な移動に対する制限や自粛により、参加希望者が減少し、一定の参加者数が見込めない可能性があること。
4. 大会初日に予定していた公開講演会の招待講演者 3 名に対しては、お願いする立場であり、できるだけ早めに開催の可否を伝えたいこと。
5. 大会開催用の会場（懇親会会場等も含む）は既に予約済みであるものの、開催直前コロナ禍が再燃し急遽中止せざるを得ない場合、大きなコスト負担が伴うこと。
6. 評議員会では、「地元実行委員会の意向を尊重し、可能な限り早めに判断すべきである」と意見の一致をみていること。

\*なお、来年以降の全国大会開催についてはまだ先行きが不透明なため、判断できない状態です。今回は大会中止の連絡だけですが、協会内には「本年度開催も視野に入れた全国大会に代わる“ネットワークを活用したイベント”」を要望する声や腹案等があり、更に「総会をどのように開催するか」という大きな問題と共に引き続き評議員会や幹事会で検討し、なるべく早く皆様へお知らせしたいと思います。